

授業科目等の概要

(医療専門課程看護学科) 令和4年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			倫理学 I	倫理学の基礎的概念を学び、人間の生活におけるさまざまな倫理のあり方を理解する。	1前	15	1	○			○			○		
○			情報リテラシー	医療人、看護師として必要不可欠な情報の取り扱いについて理解をする。看護研究、看護業務を行う上で活用する情報の取捨選択を行えるようになるための基礎的能力を養う。	1前	15	1	○	△		○				○	
○			情報科学	医療人として最低限必要な情報技術に関する基礎的な知識を理解する。コンピューターの基礎的操作方法・情報処理の方法を習得し、看護研究などに応用できる基礎的能力を養う。	1前	30	1	○	△		○					○
○			文章表現法	文章表現の基本を理解し、わかり易く簡潔な表現方法を身につける。	1前	15	1	○	△		○					○
○			生活科学	環境と生活の現状と問題点を学び、衣生活・食生活・住生活との関連を認識する。また、それらに対応する知識を身につける。	1前	30	1	○	△		○					○
○			心理学	人間の「心の働き」によって生じる現象が心理学的立場からはどのように説明されるのか、基礎的理解を深め、医療人としての対人支援を行う際の礎とする。	1前	30	1	○	△		○					○
○			教育学	教育の理論と方法を学び、学習の自発性と生活する人間にとっての教育の必要性を理解する。	1前	30	1	○			○					○
○			社会学	人々が無意識に、漠然ともっている社会のイメージを複眼・批判的に再考することの意義を認識する。人々の間にある多様な社会的関係や、社会の構造・可変性への意識や想像力を喚起する。人々の多様な考え方や立場に間接・潜在的に関係する事柄の多様性に配慮し、建設的な協調ができる。	1前	30	1	○			○					○
○			健康とスポーツ	各種運動やスポーツを通じて身体を動かすことの楽しさや心地よさを味わい、生涯にわたりスポーツを楽しむ姿勢を育てる。健康、体力の維持向上とともに生涯を通じての健康、体力づくりが実践できる能力や態度を養う。各種スポーツに親しみつつ、体力や技術の向上心を養い、健康への関心を高める。	1通	30	1	△			○	○				○

○		芸術	人間社会における視覚伝達の役割を学び、自己表現を通して創造性を養う。	1前	15	1	△	○		○			○
○		解剖生理学Ⅰ	呼吸、循環、血液系についてそのしくみと働きについて系統的に理解する。	1前	30	1	○			○			○
○		解剖生理学Ⅱ	消化と吸収、腎尿路系、内分泌のしくみと働きを系統的に理解する。	1通	30	1	○			○			○
○		解剖生理学Ⅲ	骨と筋、神経、脳及び感覚器官の発生・構成について理解し、形態と機能を系統的に学ぶ。	1後	30	1	○			○			○
○		解剖生理学Ⅳ	皮膚、体温、生殖・発生、老化のしくみ・構成について理解し、形態と機能を系統的に学ぶ。	1後	15	1	○			○			○
○		解剖生理学Ⅴ	看護学に必要なとなる、人体の構造と機能を系統的に学ぶ。 日常生活動作を人体の構造と機能の面から理解する。 自らの課題に対し、問題意識と目的を持って追求する力を育む。 チーム活動を通し、学びを共有する。	1通	30	1	△	○		○		○	
○		生化学	生体の恒常性の維持に必要とされる生体基本物質の構造と機能並びにそれらの代謝に関する知識を習得する。	1後	30	1	○			○			○
○		病理学	病気の成り立ちを理解し、病気に伴う身体の変化（病態生理）を知って、病態の正しい理解に基づいた看護で患者さんの回復を目指す。	1前	30	2	○			○			○
○		病態学Ⅰ	呼吸器系・循環器系の主な疾患の特徴と診断及び治療を学び、疾患の起因や成り行きを理解する。	1通	30	1	○			○			○
○		病態学Ⅱ	消化器系、免疫・アレルギー、血液・造血器の主な疾患の特徴と診断、治療を学び、疾患の起因や成り行きを理解する。	1通	30	1	○			○			○
○		病態学Ⅲ	脳神経系、運動器疾患、腎・泌尿器・男性生殖器の主な疾患の特徴と診断、治療を学び、疾患の起因や成り行きを理解する。	1後	30	1	○			○			○
○		病態学Ⅳ	内分泌系・感覚器系、女性生殖器系の主な疾患の主な特徴と診断、治療を学び、疾患の起因や成り行きを理解する。	1後	30	1	○			○			○
○		微生物学	病原微生物の特徴を知り、感染症成立の要因、感染症の種類と症状を学び、感染症の発症と予防の概要を習得する。	1後	30	1	○			○			○
○		栄養食事療法	栄養学の概念や基礎知識を学び、人間にとっての栄養の意義を理解する。健康の保持増進に必要な栄養と食事療法の基本を学ぶ。	1通	30	1	○	△		○	△		○
○		総合医療論	社会と共に医療のあり方が変貌しつつある今日の医療や看護の原点を考え、医療・看護の果たす役割と概念を学ぶ。	1後	15	1	○			○			○
○		看護学概論Ⅰ	ナイチンゲールを基礎とした看護の理念について理解する。 看護の対象である人間について関心を持ち、身体的・精神的・社会的側面を持つ生活者であることを理解する。 人々の生活が環境と健康のかかわりで成り立っていることを理解する。	1前	30	1	○	△		○		○	

○		看護学概論Ⅱ	近代看護が成立した背景を学び、看護の発展のプロセスから未来の看護を展望する。看護理論の意義と、看護実践に活用するヘンダーソンの理論を理解する。これからの看護に期待される役割について理解する。	1 前	30	1	○	△	○	○				
○		看護の共通技術Ⅰ	看護技術の概念と、看護技術を実践するための要素を理解する。信頼関係確立のための基本となるコミュニケーションの意義及び方法を理解し実践できる能力を養うための基礎を学ぶ。看護記録の意義と実際の記録物について学ぶ。看護における学習支援の意義と実際を学ぶ。	1 通	30	1	○	△	○	○				
○		看護の共通技術Ⅱ	対象の健康状態を観察、記録、評価する意義と方法を学ぶ。フィジカルアセスメントを実施できる基礎的技術を習得し、対象の健康状態を把握する基礎を学ぶ。	1 通	30	1	○	△	○	○				
○		日常生活援助技術Ⅰ	対象を尊重し、看護実践の基礎となる様々な看護活動に共通する看護技術、日常生活行動を整える看護技術を習得する。	1 通	30	1	○	△	○	○				
○		日常生活援助技術Ⅱ	対象を尊重し、安全・安楽・自立に留意しながら、日常生活行動を整える看護技術を習得する。	1 通	30	1	○	△	○	○				
○		看護過程Ⅰ	看護過程の意義を理解し、対象にとって必要な援助を見極め、実践するための考え方について学ぶ。	1 後	30	2	○	△	○	○				
○		診療の補助技術Ⅰ	対象を尊重し、看護実践の基礎となる様々な看護活動に共通する看護技術、日常生活行動を整える看護技術を習得する。	1 通	30	1	○	△	○	○	○			
○		地域で生活する人々の理解	人々が地域で暮らす、支え合い生きることを学ぶ。地域の生活環境が健康に与える影響を学ぶ。	1 後	15	1	○		○	○				
○		成人看護学概論	成人期にある対象の特徴と対象を取り巻く環境について学び、成人の成長・発達と健康水準に応じた健康問題や成人の特徴をとらえた看護の基本となる考え方について理解する。	1 後	30	1	○		○	○				
○		老年看護学概論	老年看護の対象となる高齢者の概念を学び、ライフサイクルにおける老年期の発達課題がわかる。高齢化の状況と高齢者を取り巻く生活環境の現状・動向を知る。加齢・老化に伴う身体的・心理的・社会的変化の特徴とアセスメントの視点を学び、生命への影響を及ぼすことに気付く。	1 後	30	1	○	△	○	○				
○		療養生活を知る実習	患者の病床環境を理解し、原理・原則に基づいた日常生活援助の実践を行うことで看護に対する関心と意欲を高めることができる。また、看護の基礎となるコミュニケーションを学ぶことができる。	1 後	45	1			○	○	○	○		
○		療養生活を支える実習Ⅰ	患者の身体的・精神的・社会的側面から全体像を捉え、看護過程の展開の体験を通して、根拠ある日常生活援助を行うための基礎的な能力を養う。	1 後	90	2			○	○	○	○		
○		倫理学Ⅱ	医療現場の倫理問題と生命の尊さを考え、感受性と思考力を身につけ、看護の実践の基盤にする。	2 前	15	1	○		○		○			

○		英語 I	医療や看護、福祉の現場に必要な英語の基礎的知識を身につけることができる。	2 前	15	1	○	△		○			○
○		プロフェッショナルスキル	自分の目指す職業に対する期待を持ち続け、社会人として専門職業人としての教養を身につけ、自律した大人として社会へ出る準備を行う。	2 後	15	1	○	△		○		○	○
○		薬理学の基礎	薬理作用の基礎的知識・作用機序を学び、薬物の特徴、適切な使用・管理について理解する。	2 前	15	1	○			○			○
○		臨床薬理学	薬物療法が必要な患者に対し、疾病の治癒・生活力回復の促進、対象者自身の服薬管理能力向上のための看護、薬剤使用の判断などの実践する基礎的能力を習得する。	2 前	15	1	○			○			○
○		公衆衛生学	公衆衛生の基本内容・生活者の健康増進に対応した法制度及び保健活動の進め方について理解する。	2 前	30	1	○			○			○
○		社会福祉 I	社会福祉について、制度の基本を学び、社会環境の変化と生活支援のあり方について理解する。	2 前	15	1	○			○			○
○		日常生活援助技術 III	臨床判断するために必要な力を知り、事例演習をくり返すことで、臨床判断していくための基礎的な能力を養う。	2 前	30	1	△	○		○		○	
○		地域で生活する人々を支える基盤 I	地域における健康と暮らしを支える看護を理解する。地域で看護が提供される多様な場と提供方法を理解する。	2 前	30	1	○			○		○	○
○		地域で生活する人々を支える基盤 II	地域で生活する人々を支える法と制度の施策を学ぶ。地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメント、多職種との連携・協働について学ぶ。	2 通	15	1	○			○		○	○
○		地域・在宅に必要な看護技術	暮らしの場で行われる治療と看護を学ぶ。	2 後	15	1	○	△		○		○	○
○		地域・在宅での終末期看護	地域・在宅における健康レベルに応じた継続看護を学ぶ。終末期にある療養者および家族への看護を学ぶ。	2 後	15	1	○			○		○	○
○		地域・在宅の看護を考える	地域で療養生活を送る人と家族を健康レベルと生活から包括的にとらえ、看護を実践するための看護過程の展開を学ぶ。	2 後	30	1	○			○		○	
○		急性期・救急の患者を支える看護	成人期の急激な健康障害と急性疾患をもつ対象の特徴を理解し、主な急性疾患の患者に必要な観察や治療処置に伴う看護について理解する。	2 前	15	1	○			○		○	○
○		周手術期の患者を支える看護	周手術期にある成人期の患者や家族の危機的状況を理解し、手術によって起こる生体への侵襲を最小限に留め、患者の持つ自然治癒力を発揮できるための援助を学ぶ。	2 通	30	1	○	△		○		○	○
○		慢性期・回復期の患者を支える看護	慢性期な健康障害と慢性疾患を持つ対象の特徴を理解し、慢性疾患と共に生活する患者と家族への看護を学ぶ。	2 通	15	1	○			○		○	○
○		終末期の患者を支える看護	終末期にあり全人的苦痛をかかえた患者とその家族を理解し、QOLの維持をはかりながらその人らしく生き抜くための看護を学ぶ。終末期を生きる人に向き合うために自己の死生観を養う。	2 後	30	1	○			○			○
○		がん患者を支える看護	がんの病態や診断・治療、がん患者の身体的・精神的・社会的苦痛を総合的に理解し、がんと共に生活する患者と家族への看護を学ぶ。	2 後	15	1	○			○			○

○		看護過程Ⅱ	成人の看護領域における患者の健康問題をアセスメントし、科学的根拠に基づいた看護過程の展開を行う。	2通	30	1	○			○		○		
○		成人期の看護の実際	成人の急性期、周手術期、慢性期に応じた患者の健康問題を、病態や治療をふくめて包括的に理解し、患者に必要な観察や看護援助がわかる。	2後	30	1	△	○		○		○		
○		老年期の特徴をふまえた看護	高齢者の健康障害の特徴および加齢・老化から生活機能への影響が分かり、その人らしい生活を営むことを考慮した支援を学ぶ。	2前	30	1	○	△		○		○	○	
○		老年期の疾患と看護	高齢者の健康障害から発症する疾患と看護について学ぶ。	2通	15	1	○	△		○		○	○	
○		認知症患者の看護	高齢者の特徴と健康障害を踏まえ、生活機能の観点からアセスメントし高齢者がその人らしく生活できることを重視した看護過程を学ぶ。	2後	30	1	○	△		○		○	○	
○		小児看護学概論	小児各期の成長発達の特徴、子どもの権利、小児看護の役割を理解する。また、子どもと家族を取り巻く社会について考え、子どもへの関心を深める。	2前	30	1	○			○		○		
○		子どもの病気・障がいと生活支援	子どもに特有な疾患を病態・症状・診断・治療の視点から概観し、疾患や障害のある子どもの特徴を理解する。また、子どもの健康状態をアセスメントでき、疾患の予防や健康の保持・増進に対する援助について考え、基礎知識を習得する。	2前	30	1	○	△		○		○	○	
○		病気をもつ子どもの療養と看護	子どもの成長・発達と生活を考慮し、さまざまな健康レベルにある子どもと家族の健康の維持・促進・回復するための知識と看護過程を通して子どもへの看護の考え方を学ぶ。	2後	30	1	○			○		○	○	
○		子どもに必要な看護技術	子どもの特徴をふまえた安全・安楽な看護技術を習得する。	2後	15	1	○	△		○		○		
○		母性看護学概論	女性の生涯を通しての健康問題と取り巻く環境を理解し、リプロダクティブヘルス/ライツの概念に基づく看護のあり方を学ぶ。	2前	30	1	○			○		○	○	
○		マタニティサイクルにおける看護Ⅰ	正常な経過および正常を逸脱した妊婦、産婦及び胎児について理解し、妊産婦と家族を含めた看護の基本を学ぶ。	2前	30	1	○			○			○	
○		マタニティサイクルにおける看護Ⅱ	正常な経過および正常を逸脱した褥婦と新生児について理解し、褥婦と家族および新生児を含めた看護の基本を学ぶ。	2後	30	1	○			○			○	
○		ウィメンズヘルスと看護	女性の健康（ウィメンズヘルス）の視点から、女性のライフサイクル各期の特徴を捉え、健康の回復や健康生活を支えるための看護実践に必要な考え方を学ぶ。新生児に対し、安全・安楽に援助するために必要な看護技術を習得する。	2後	15	1	○	△		○			○	
○		精神看護学概論	人間の心の健康を成長、発達、社会適応の側面から学び、精神保健の考え方がわかる。精神障がいのある人の社会における処遇を歴史的に概観し、人権擁護やこれからの精神看護を考える。精神保健医療福祉をめぐる法制度を学び、患者の生活支援や医療サービスの仕組みを知り、看護を幅広く考える。	2前	30	1	○	△		○			○	

○		精神疾患をもつ人の理解	患者が示すさまざまな症状・病態を学び、対象の個別性に合わせた看護を実践する基礎的知識・態度・技術を学ぶ。 精神科治療や疾患の特徴から生じやすい問題状況の把握のしかたと看護師の役割を学ぶ。	2通	30	1	○		○		○			
○		精神看護に必要な技術	患者にとっての入院体験の意味を考え、入院の仕方、患者のアセスメントの仕方を学ぶ。患者の回復に繋がる治療的環境をどのようにするか、そのために看護師に必要なことは何かを学ぶ。地域で生活している患者のサポートについて理解する。当事者研究の方法を学び、他者理解、自己理解の必要性を理解する。	2後	30	1	○	△		○		○	○	
○		ケーススタディ	ケーススタディを通して看護にとって研究のもつ意味を理解し、研究の基礎的知識と進め方を実践的に学ぶ。	2通	30	1	△	○		○				○
○		急性期看護実習	成人期または老年期にあり、急性疾患や手術によって健康状態が急激に変化した状態にある対象を理解し、必要な看護を実践できる基礎的な能力を養う。	2後	90	2			○		○	○	○	
○		慢性期・回復期実習	成人期または老年期で、疾患の経過が長い、あるいは完全な治癒が望めない状況にある対象を理解し、必要な看護を実践できる基礎的な能力を養う。	2前	90	2			○		○	○	○	
○		健康支援実習	地域で生活するあらゆるライフステージの人々が行う健康の推進活動について理解する。 また、施設で生活する高齢者の健康の維持や自立のための基本的な日常生活の援助や、介護保険制度における介護予防サービスや施設サービスの支援の在り方について学ぶ。	2後	90	2			○		○	○	○	
○		英語Ⅱ	医学用語と基本構造を学び、文献の内容を把握し国際化に対応しうる基礎的な能力を養う。	3通	30	1	○	△		○				○
○		関係法規	法の基本的知識を学び、看護の専門性やその活動にかかわる法的諸問題を保健師助産師看護師法、各種関連法規の学習を通して理解し、看護職が果たしうる法的責任について学ぶ。	3前	30	2	○			○		○	○	
○		社会福祉Ⅱ	社会福祉について、そのサービス運用主体などを学習し、人々のニーズに応える生活支援のあり方について理解する。	3前	15	1	○			○				○
○		診療の補助技術Ⅱ	診療の補助技術の原則を理解し、治療・処置を受ける患者の安全・安楽を図る技術を学ぶ。	3通	30	1	○	△		○		○		
○		精神疾患をもつ人の生活と看護	事例を通して精神疾患や障がいをもつ対象とその家族に必要な看護を考えることができる。	3前	15	1	△	○		○		○		
○		医療安全と看護管理	医療安全の確保に向けて、医療事故の構造と危険認識能力の重要性を理解し、事故防止に必要な知識・技術を身につける。 看護業務上の危険と防止策について理解する。 医療を取り巻く環境の変化が看護管理に及ぼす影響を学び、マネジメントの概念と看護の組織化を理解し、より良いケアを行うために看護者としての役割を理解する。	3通	30	1	○	△		○		○	○	

○		チーム医療と看護	医療現場に起こりやすい状況のなかで、医療チームのなかで協働し看護を実践する基礎的能力を養う。チームの一員として看護実践を遂行するために必要な基礎的な能力についてその考え方を知り、自己の課題を考える。	3通	30	1	○	△	○	○								
○		災害看護と国際看護	グローバルヘルスの現状と課題について理解する。国際看護の必要性を理解し、日本の国際看護活動の現状を理解する。災害看護の考え方を理解し、適切な災害看護活動を実践する基礎的知識を学ぶ。災害看護の基本をシミュレーションを通してイメージできる。	3通	30	1	○	△	○									
○		地域・在宅看護論実習	療養者及び家族の価値観や療養生活を理解し、生活支援の実際を学ぶ。家庭や施設など生活の場がさまざまである療養者及び家族が社会資源を利用し、よりよい生活ができるよう多職種と連携・調整するための基礎的能力を養う。	3通	90	2			○	○	○	○	○					
○		終末期看護実習	終末期にある患者と家族を理解し、QOLを考えた看護実践ができる基礎的な能力を養う。また、死生観を養う機会とする。	3通	90	2			○	○	○	○						
○		療養生活を支える実習Ⅱ	科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を養う。	3通	90	2			○	○	○	○						
○		小児看護学実習	小児期にある対象と家族を理解し、成長・発達段階及び健康レベルに応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。	3通	90	2			○	○	○							
○		母性看護学実習	女性のライフサイクル各期に焦点をあて、リプロダクティブヘルス/ライツにおけるセルフケアへの看護者の役割や支援のあり方を学ぶ。また、母性看護における継続看護の必要性を学ぶ。	3通	90	2			○	○	○							
○		精神看護学実習	精神疾患や障がいのある対象及び家族を身体的・精神的・社会的側面から全体的に捉え、個別性にあった看護を実践できる基礎的能力を養う。	3通	90	2			○	○	○							
○		看護の統合と実践実習	習得した知識・技術・態度を統合し、チームの協同を通して複数患者の優先度をふまえた看護を学ぶ。看護管理の実際を学び、組織の中での役割を理解し、臨床での看護実践にむけた基礎的能力を養う。	3後	90	2			○	○	○	○						
合計			90科目	104単位3015時間														
卒業要件及び履修方法										授業期間等								
各教科ごと8割以上の出席かつ、単位認定試験・実習評価にて可（60点）以上の成績										1学年の学期区分				前期・後期				
										1学期の授業期間				23週				

（留意事項）

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

※令和4年度からの新カリキュラムで記載している。